

第38回 北海道中学生新人バドミントン競技選手権大会 参加細則

1 全般的事項

- ① サービス高を1.15mに固定する新ルールを適用します。ポストやプレーヤーの着衣にコート面から1.15m高さのところにテープやリボンなどでマークを付け、そのマークを基準にコート面から1.15mの高さのところに水平面をイメージし、判定をします。
- ② 試合進行はできるだけタイムテーブルにそって進めるが、時間短縮のため流し込み方式で進める。時間・コートの変更がありえるので放送に注意すること。
- ③ 試合が連続する場合は、前の試合の後、10分間を確保して次の試合を開始する。
- ④ 入場について、団体戦及び個人戦ともに、番号の若い方(プログラムで上に記載されている方)が主審の左側に入ること。
- ⑤ 競技の服装は審査合格品とする。また、北海道中学校バドミントン大会(中体連全道大会)に準じて、その大会要項に掲載されているゼッケンをつけ、四隅を留めることとする(背面表示がある上衣は、ゼッケンで全て覆い隠すこと)。なお、ウェアからはみ出すタイプのインナー等についても審査合格品とする。
- ⑥ ウェア(上衣)の裾は、マナーとして下衣に入れること(特に入退場や挨拶時、インターバル時)。
- ⑦ 試合中の水分補給は、基本的に主審が汗ふきタイムを認めたときに、試合進行に影響が出ないように素早く済ませること。ただし、飲み物はスクイズボトルに入れること。
- ⑧ 指定のカゴに入れて良い物は、交換用ラケット(ケースから出しておく)、タオル、スクイズボトル、滑り止めのみ。その他の物はベンチ、または、コーチングシートで保管すること。氷のうは、保冷バッグに入れてベンチ、または、コーチングシートで保管すること(カゴには入れない)。
- ⑨ フロア内での飲食や、ハードタイプのクーラーボックスの持ち込みは禁止します。
- ⑩ 審判員の判定に対して疑問があるときは、個人戦の場合は当該プレーヤー、団体戦の場合は当該プレーヤー、または監督が質問できる。(大会運営規程第6章第36条)
- ⑪ 原則として試合に負けたチームの監督、外部指導者(コーチ)、マネージャー(教員)が主審をすることになるので、試合終了後、直ちに本部席まで来てください。また、敗者選手には線審をお願いします。なお、得点係と、単の場合の線審(1名)は主管地区協会が担当します。
- ⑫ フラッシュや、ライトを点灯させての撮影、および、競技フロア内での撮影は禁止します。
- ⑬ 「競技役員長(レフェリー)から競技審判上の確認と連絡」のページを熟読すること。

2 団体戦に関する事項

- ① 監督は当該学校の校長・教員であること。団体戦における外部指導者(コーチ)は、当該学校の校長が認めた者とする。マネージャーは当該学校の教員または生徒とする。
- ② ベンチに入れるのは、登録された監督・外部指導者(コーチ)またはマネージャー・選手とし、必ずIDを付けることとする。また、コーチングシートに入れるのは監督と、コーチまたはマネージャーのどちらか1名とする。
- ③ オーダー用紙の交換は、対戦相手が決まり次第、放送にて案内します。
- ④ 試合のコールがされたら直接コートに集合し、主審が来てから挨拶、マッチ前練習(2分間)、試合の順で行う。個人戦の練習は、試合がコールされてから主審が来るまでの間とする。
- ⑤ マッチ前練習について、練習コートは番号の若い方のコートでトーナメント表の上のチームが、残りのコートで他方のチームが練習をし、その後、第1複と単の試合を行う。なお、先に終わったコートで第2複の試合を行う。1コートで団体戦を行う場合は、トーナメント表の上のチームが先に2分間の練習を行い、続いて他方のチームが行う。いずれも主審の合図で2分間ずつ行うこととするが、双方とも必ず練習を行うものとする。
- ⑥ 2コートを同時に使用しての並行試合を行う。試合の勝敗は、第1複・単・第2複のうち、いずれか2ポイントを先取したチームの勝ちとする。また、進行の関係で3コート同時に進行することがある。この場合は、できる限り監督に確認の上で実施する。また、どちらかのチームが初戦の場合は第2複まで行い、それ以降は勝敗決定(2マッチ先取)後、打ち切りとする。

3 個人戦に関する事項

- ① コーチングシートに入れるのは、監督、マネージャー、外部指導者(コーチ)、並びに団体戦登録選手のうち2名以内(男女別)とし、必ずIDを付ける。また、インターバル時のサイドコーチも、そのうち2名以内とする(団体戦も同様)。
- ② 単の場合、練習相手として1名入場できるが、練習終了後、直ちに退場しなければならない。複はパートナー同士での練習とする。